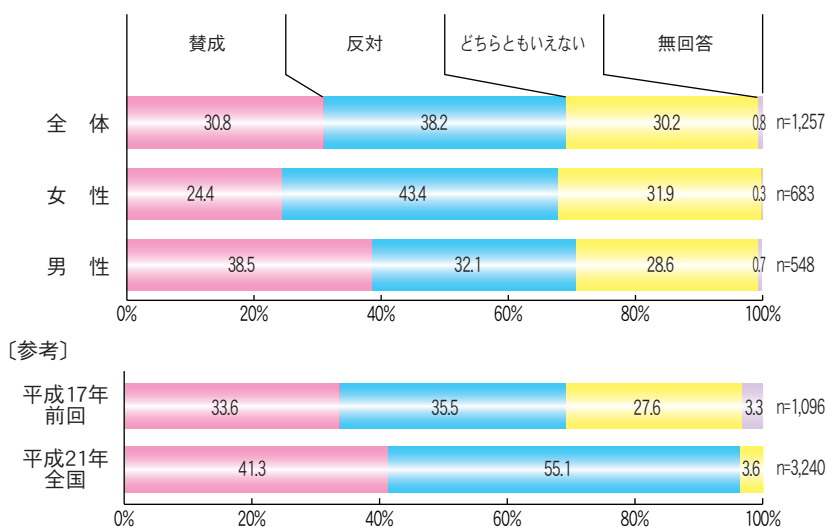


「男は仕事、女は家庭」という考え方に反対する人が増加 特に男性に根強い性別役割分担意識

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、全体では「賛成」の人が30.8%、「反対」の人が38.2%となっており、前回調査(平成17年9月)より、賛成派が減少、反対派が増加しています。

また、性別でみると、女性は「反対」(43.4%)、男性は「賛成」(38.5%)の人の割合が高くなっており、男女で意識の差がみられます。

「男は仕事、女は家庭」という考え方について



・前回データ:男女共同参画社会づくりのための県民意識調査(平成17年9月、宮崎県)
・全国データ:男女共同参画社会に関する世論調査(平成21年10月、内閣府)

3 家庭生活に関する意識と実態

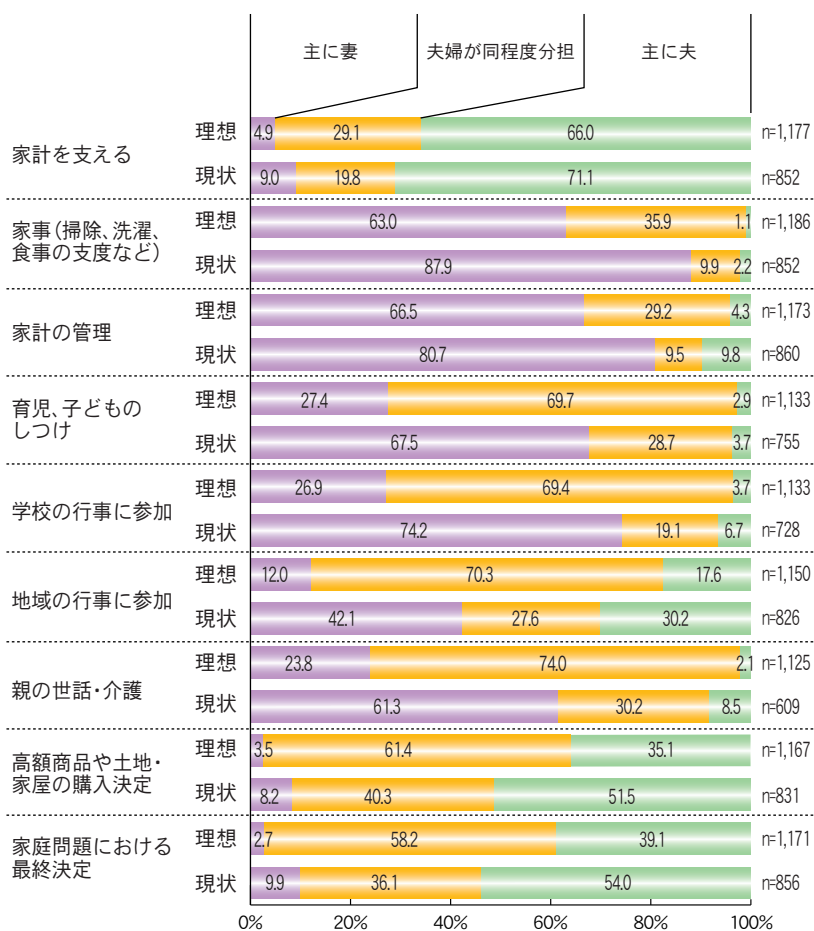
育児・介護・学校や地域の行事は「夫婦が同程度分担」、家計を支えるのは「主に夫」が理想

子どもや親の世話、学校や地域の行事への参加については、7割前後の人が「夫婦が同程度分担」することを理想と考えていますが、現状では妻が分担している割合が高くなっています。

家事や家計の管理については、6割強の人が「主に妻」、3割前後の人が「夫婦が同程度分担」することを理想と考えていますが、現状では夫婦が同程度分担している人の割合は1割未満にとどまっています。

家計を支えることについては、理想・現状ともに「主に夫」の分担とする人の割合が高く、6割を超えています。

夫婦の役割分担の理想と現状



・現状については、「夫と妻以外の人が行っている」との回答を除いて集計した数値